

# 日本農業賞受賞!!

## ゆずの風新聞



### いつもありがとうございます!

この度「日本農業賞」食の架け橋部門において大賞をいただくことが出来ました。農業賞としては、1995年にいただいた「朝日農業賞」以来の受賞になり、馬路村でゆずをつくる190戸の農家にとって、大変喜ばしいことでもあります。馬路村は96%の森林率を誇り、農業には不向きな土地です。中山間、ましてや人口が千人にも満たない過疎の村で、産業振興というのは非常に難しく、いつも苦労の連続です。この受賞をひとつの励みにし、応援してくれる皆さんのためにも、コツコツとゆずに取り組んでいきたいと思えます。

令和5年  
らんまんの号  
発行  
馬路村農協



農協HP  
はごしら

### 86歳 すみちゃんの バイリンガル コーナー



村特有のバイリンガル用語がたくさんあります。あなたはわかるかな？

Q いらばかす  
例) りっちゃん「今日はふきのとうをべったり採った。」  
いさおさん「いよいよ、いらばかすなあ(笑)」

※答えは裏面に

## 有機面積 日本一!!

有機のまちは小規模  
本紙まとめ 若手農家ほど関心高く

順位	市町村	有機面積(ha)	総面積に占める割合(%)
1	馬路村(高知)	75	15.5%
2	西川町(山形)	121	9.8%
3	大蔵村(山形)	46	8.1%
4	湯前町(熊本)	53	7.7%
5	藤野町(宮崎)	44	5.2%
6	吉良町(高知)	51	4.9%
7	小国町(山形)	19	4.6%
8	赤村(秋田)	39	4.5%
9	小室町(高知)	15	4.4%
10	川本町(長野)	39	4.0%
11	長和町(長野)	28	3.8%
12	五ヶ瀬町(宮崎)	67	3.8%
13	湯水町(鹿児島)	140	3.8%
	中津町(青森)	25	3.8%

有機面積割合が高い自治体

先日、日本農業新聞に思わぬ記事が掲載されていました。「有機面積割合が高い自治体」としてなんと、馬路村の名前が記載されていたのです。しかもランキング第一位! 農水省の調査を基に日本農業新聞が算出したらしく、耕地面積のうち、何割が有機面積であるかが掲載されていました。馬路村のゆず栽培は、先代ゆず部会長の「お客さんに食べてもらうものは安全なものがええらう」の一言から20年以上、有機に準じた栽培方法を実践しており、有機栽培の認定を取る取らないに関わらず、190戸の農家全員が化学系の肥料や農薬、除草剤を使用しません。そして馬路村の耕地面積は半分以上がゆず畑のため、有機割合が60%となっており、第二位の自治体を大きく上回る結果になっていました。順位を比べるものではないですが、農家さんはどこか嬉しそう。有機栽培となると「一気に大変になる畑仕事ですが、これからも続けてもらえるよう農協も頑張っていきたいですね。」

## 春のパン すしハンター現る!!

入稿を8日後にひかえた2月2日、ギリギリのスケジュールでコンセプトが決定し、春のパンフレット制作が開始しました。「すし」をテーマにした時、馬路村のイメージとして五目寿司や田舎寿司に走りがちですが、日常には家庭ごとになんか形の「すし」があります。同じ五目寿司でも具が違ったり、あの家は味付けは甘いけど、あそこは酸っぱい。必ず五目である必要もなく、昔ながらのすしもあれば今時のすしもあり、何かあればすしを作るのが馬路の文化と言えます。それぞれの味にそれぞれの嬉しいが込められた「村のすし」が今回のテーマとなりました。テーマは決まったものの、締切目前、この1日2日ですしを作ってくれる家を4、5軒見つけなければなりません。テーマを変えたいくらい嫌な気分でした。予定も無いのに急にすしを作って欲しいと言うのは難易度が高過ぎたのです。そこに救世主、某先輩が居合わせたのが地獄に仏。「明日節分やし、もしかしたらおばちゃんらあ作るかも。それなら小皿分けてもらえそう。」と心当たりのあるおばちゃん数人に突撃してくれたのです。5時をまわって何軒も狙いを定める姿はハンターそのもの。先輩の目論見通り、作る予定のおばちゃんは快く分けくれ、作る予定が無く、断念したおばちゃんも、気にして次の日に作ってくれるという神様のような対応。受け取りに行くとお昼ご飯までご馳走になり、おばちゃんの暖かさが身に染みしました。ありがたい大量の「村のすし」がそろい、先輩の狙いは百発百中、すしハンターの称号を贈呈しました。今春のパンフレットは無茶なお願いに快く応じてくれる村民の暖かき、皆んなの娘のような存在になってくれる先輩の協力があって完成した、皆で作ったパンフレットになっています。



# 販売デザイン紙

「そろそろ包装紙を変えよう」と思いゆう。

珍しく組合長本人がデザイン室に現れ、デザインコンペの開催を宣言しました。組合長は元々色見本を探しに来ていたのですが、話の流れでデザイン室の全員に、包装紙のデザインを提出するようお願いして帰って行きました。提出期限は次の販売会議。普段であれば良心的と思える2週間の猶予でしたが、デザイン室は春のパンフレット制作の真っ只中。パンフレットだけで一杯一杯の制作期間中に、降って湧いた大きな仕事、現実逃避に走るしかありません。包装紙の存在は気になりつつも、パンフレットを止めるわけにいかず、やっぱり包装紙が気になって。正直どちらにも集中できず、時間だけが過ぎていきます。時間に追われながらも、なんとか期日に間に合った包装紙は皆2点以上提出し、趣味で参戦してきた販売課長も加わり、バリエーション豊かなラインナップとなりました。これには回収に来た組合長も「なかなか力が入っちゃうやいか」の一言。私としてはそれで満足、じゃあ解散。といきたいところでしたが、会議は会議、上部のおじさんに好き勝手言われなければなりません。デザイン室といってもプロのデザイナーでもイラストレーターでもなく、農協職員ではない私たちのデザインがどんな評価をされるのか、どれが選ばれるのか、戦々恐々としていました。誰が誰のかわからないよう作者を伏せて提出したので、課長にも不正は出来ない真剣勝負です。皆さんどのデザインが選ばれたと思いますか？

答えは包装紙が出来てからの楽しみです。



# 安田川 あめじい漁解禁 改めりのこと

3月1日、安田川の

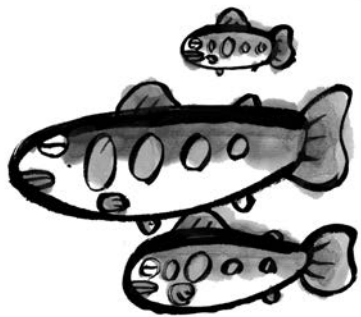
あめじい漁が解禁となり、今年もおんちゃんたちが川遊びに勤しむ季節がやってきました。おんちゃんたちにとって大切な遊び場であり、あめじいや鮎、うなぎの住む自然豊かな安田川ですが、大雨による氾濫や、浸食による道の崩落の危険性もあります。生活の隣にある川を人間の安全・利便性のため、セメントで塗り固めてしまうのは簡単ですが、それでは安田川の豊かな生態系を失うことになり、おんちゃんたちの遊び場もなくなりかねません。



【水制工】

古くは戦国時代の治水にも使われており、洪水時に川岸（水衝部）を守るために設置される河川構造物である。川の中心に向かって設置することで、本流の向きをそらし、その勢いを弱める働きをする。

安田川の水制工①②③は、川沿いの住宅や道の安全を確保するとともに、エアノマキの淵を安定させる働きも同時に担っていて、子供たちの飛び込みスポットを守っている。



【分散型落差工】

川底が削れるのを防ぎ、川底の勾配（傾き）を安定させるために設置される河川構造物を床固め、または床止めと言います。この床止めに落差がある場合は落差工と呼ばれる。一般的な落差工は、川幅一杯に段差があり、鮎などの魚が遡上することは困難であるため、福留氏が考案したのが分散型落差工である。自然の川の瀬（水深が浅く、白波が立っている所）の石の配列に着目し、それを模して石を組み分散型落差工を造った。水の流れに緩急があり、鮎が遡上できる構造になっている。

然に近い形で自然と人間の境界線を守ろうと、安田川は近自然工法という技法を取り入れているそう。近自然工法とは、スイスで誕生した技法で、人間活動と生物生存の両立をコンセプトにしています。それを西日本科学技術研究所の福留氏（故）が日本へ持ち帰り、江戸時代やそれ以前の古い日本の技術も参考にしつつ、日本の地理的環境に合わせて考案、施工されています。安田川では、水制工と分散型落差工が施されています。自然の石を組み、水の流れる力を利用してこの方法は、知らなければ気づかない程、安田川の景観に馴染んでいて、かつ川の生態系も人間の暮らしも守っている、すごい技術なのです。このおかげで、おんちゃんたちは毎年あめじいや鮎釣りに精を出せるのです。

## なんでもハガキ

ご注文とか、おーの嬉しいとか、もつと頑張れとか、なんでも使えるハガキです。

学生の頃に、親から仕送りでゆずジュースをもらって以来、大人になっても飲み続け、20年経ちました。今でもほぼ毎日、風呂上がりに飲んでます。ゆずの濃厚な味とハチミツのさわやかな甘さのファンです!!

「おーの」 ゆずジュース 大好き♡

①以下の資料をご希望の方は(○)を付けてください。

おーの嬉しい

おーの嬉しい ぬすみっく

怒哀案の強調に使う

森を元気にする会社  
エコアス馬路村



http://www.ecoasu.co.jp/

馬路温泉



馬路温泉 HP

つるつるのお湯でゆったり。食事、宿泊もできます。  
電話番号  
0887-4412026  
予約専用フリーダイヤル  
0120-14412026

すみちゃん 86歳  
バリンガル  
コーナー



「うらばかす」  
＝  
「見せびらかす」  
（自慢する）  
今日はふきのとうをいっぱい採って「見せびらかし」ちゃった。

## 編集後記

ついこの前、年が明けたが終わってしまいました。年々、1年が短くなっているように感じます。この新聞を作っていた2月は、春パンフレットの制作と包装紙のデザイン案提出、農業賞をいただいたこともあって、思いがけず慌ただしい月となりました。おかげ様で日々の記憶も無く、この新聞の記事を書くにも、だいぶ頭を悩ませることになりました。このひと月でふきのとうは花が咲き、早咲きの桜も見え始め、いよいよ春の到来です。巷ではマスクを外す外さないの話題で盛り上がっているようですが、花粉症の私はもうしばらくマスク生活をやらせようと思っています。もし同じ方がいれば、今年も一緒にこの季節を耐え抜きましょう(笑)